

CONTENTS

特集 ● 透析患者の皮膚を守る カラーでみる

1. オーバービュー：透析患者の皮膚疾患	佐藤 貴浩	7
2. 日常診療で遭遇する皮膚疾患		
(1) 透析掻痒症	成田 一衛	13
(2) 白癬症	多田 弥生	19
(3) 褥 瘡	新井 龍	25
(4) 带状疱疹	藤倉 知行	33
(5) 乾 癬	小倉 康晶 他	40
(6) 天疱瘡，水疱性類天疱瘡	青山 裕美	46
(7) カルシフィラキ시스	林 松彦	52
3. 合併症の予防に必要なケア・対策		
(1) 血管アクセスのケア	廣谷紗千子	57
(2) 腹膜透析カテーテルのケア	江里口雅裕 他	63
(3) フットケア	愛甲 美穂	71
(4) スキン-ケア対策	谷 明美	76
コラム1：皮膚掻痒症に対するチーム医療	高橋 直子	84
コラム2：皮膚色素沈着と血液浄化療法	柴田 昌典 他	87
コラム3：透析患者における皮膚組織内ナトリウムの貯留の意義	西山 成	90
コラム4：慢性腎臓病患者と穿孔性皮膚症	川上 民裕	93



ワンポイント
アドバイス

- 带状疱疹において，空気感染予防が必要となる場合……………37
- スキン-ケアを防ぐための透析回路の固定法やテープの
 取り扱い……………80

OPINION 41年目に突入した「臨牀透析」 鈴木 正司 5

編集委員 鈴木 正司 伊丹 儀友 小松 康宏 西 慎一 中山 昌明 加藤 明彦 花房 規男
鶴屋 和彦 下山 節子 佐藤 久光 中原 宣子 三村 洋美 市川 和子 齋藤かして
山下 芳久
編集顧問 川口 良人 浅野 泰 〈本特集担当編集委員：加藤明彦，石川敬子（ゲストエディター）〉

連載 ●

透析食のレシピ／

家族も満足！／1人暮らしでも楽々！ ————— 望月 貴子 96

ケース・スタディ／

多発する非持続性心室頻拍を認めた若年者に血液吸着療法で救命しえた1例 ——— 佐藤 晃一 他 97

透析患者の薬、どう使いわける？／

HIV 治療薬 ————— 照屋 勝治 105

別冊付録……………腹膜組織・内視鏡所見判定ガイド 2024

ご案内 32, 45, 83

前号ご案内・次号予告 111

編集後記 112

Theme of this month ● Protection of the skin in dialysis patients

- | | | |
|--|--------------------------|----|
| 1. Cutaneous manifestations in hemodialysis patients : an overview | Takahiro Satoh | 7 |
| 2. (1) Uremic pruritus | Ichiei Narita | 13 |
| (2) Dermatophytosis | Yayoi Tada | 19 |
| (3) Skin diseases encountered in daily practice : pressure ulcers/injuries | Ryu Arai | 25 |
| (4) Herpes zoster | Tomoyuki Fujikura | 33 |
| (5) Psoriasis in dialysis patients | Yasuaki Ogura, et al | 40 |
| (6) Skin diseases in daily clinical practice : pemphigus, bullous pemphigoid | Yumi Aoyama | 46 |
| (7) Calciphylaxis | Matsuhiko Hayashi | 52 |
| 3. (1) Care and measures necessary to prevent complications | Sachiko Hirotani | 57 |
| (2) Care of peritoneal dialysis catheter | Masahiro Eriguchi, et al | 63 |
| (3) Foot care | Miho Aiko | 71 |
| (4) Skin tear prevention measures | Akemi Tani | 76 |

■お知らせ 投稿論文は電子メールにて受け付け致しております。
 投稿規定が改訂となりましたので、規定をよくご確認のうえ、ご投稿ください。
http://www.nmckk.jp/nmckk/pdf/ContributionRule_IJCD.pdf
 株式会社 日本メディカルセンター

*本誌に紹介される治療法については、先端的・研究的な治療法を含み、また筆者の個人的な見解もあり、必ずしも普遍的な治療法ではないものもあります。